

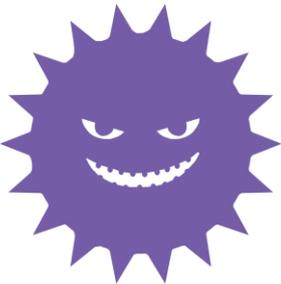
乗務員詰所縮小で「休憩難民」に…?

その②

【会社の主張】

- 乗務員通路を新設することで、大田運輸区と乗継箇所へのアクセスが改善する。
- 異常時に大田運輸区と乗継箇所との往来がしやすくなる。

●コロナ禍に敢えて「密」？それ以外にも弊害が…



会社はこのように主張していますが、**コロナ禍で「密」を避けるべき状況下で詰所を減築し、敢えて「密」になる状況をつくり出すことは社員の「安全・健康・ゆとり・命」を蔑ろにすることです！**

移動労働という特殊な労働環境の中、すぐに休める環境が整った詰所を減築し、ホームから遠く離れた大田運輸区に行かせることにより、さらに肉体的・精神的な疲労の増大につながるうえに、異常時対応能力が著しく低下します。

●大赤字の中、人命につながる耐震補強よりも乗務員通路建設を優先…！？

一方で、蒲田駅の耐震補強工事予算が削減されたということも囁かれています。大赤字の中、耐震補強工事よりも乗務員通路建設を優先させ、詰所を減築する必要があるのでしょうか？



※写真はイメージです。

【会社のねらい】

- 合間時間は乗務員を大田運輸区本区に戻して待機させる⇒社員管理の徹底・強化
- 乗務効率を上昇させることにより、労働密度も上昇させる など…

**社員の安全・健康・ゆとり・命よりも
管理強化やコストダウンに重きを置くべきなのか？**